



地域の概要及び課題

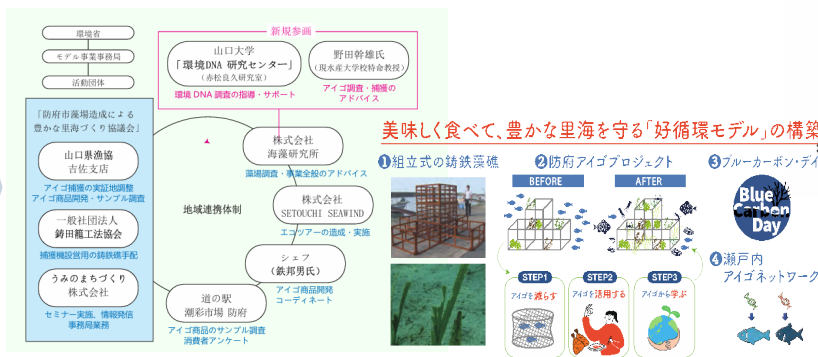
【地域の概要】

・R 4 年から地場産業の鋳物を用いた「組み立て式の鋳鉄藻礁システム」による藻場造成を実施。0.3t-CO2のブルーカーボンドリット認証を受ける。R 5 年度からアイゴの磯焼け対策に取り組む。

【課題】

・アイゴによる磯焼けが深刻化。効率的な捕獲法を確立が課題。加えて当該地だけでなく瀬戸内広域で磯焼けに取り組む必要性。
・地域で里海づくりや藻場の重要性をPRし、住民や市民団体、学校、行政、企業など多様な人たちと連携できる体制づくりが必要。

取り組みの実施体制、連携



R 6 年度モデル事業における取組内容および成果

アイゴの捕獲実証実験

アマモ場、ガラ藻場に各2種類のカゴ網を用いてアイゴの捕獲実験を実施。



【成果】実証地での捕獲数は35匹、前年比3割以下に。原因は水温が高かった可能性が考えられる。

環境DNAによるアイゴの生態把握

環境DNAによるアイゴの生態調査を実施（7～12月で5回調査）



【成果】山口大学の指導のもと、環境DNAによる調査手法が学ぶ。期間中10-11月はアイゴを確認。7-8月は水温が高かったためか確認されなかった。

アイゴの商品開発と販路開拓

アイゴ干物を商品化、企業の社員食堂等で食害魚を食べる「ブルーカーボン・デイ」実施。



【成果】干物は「やまぐち6次産業化・農商工連携推進大会」に出展PR。「ブルーカーボン・デイ」では商船三井(株)の社員食堂にアイゴフィレを販売。

活動の啓蒙普及

・親子ワークショップ「海底湧水を使った塩づくり」「アイゴタコス教室」実施
・瀬戸内広域でアイゴに取り組む団体と交流「瀬戸内アイゴサミット」実施



【成果】教育委員会を通じて市内全小学校にチラシ配布、広くPRできた。「瀬戸内アイゴネットワーク」設立に向けて協力団体と交流ができた。

今後の課題および取組方針

- ・アイゴのテスト販売の結果はいずれも好評。今後はアイゴを安定供給できるよう捕獲方法の確立が課題。引き続き、エリアを広げて環境DNA調査を継続し、他地域と情報交換しながら、瀬戸内海におけるアイゴの磯焼け実態の把握と、捕獲方法の確立を目指す。
- ・食を通じた里海保全是、海を自分ごととして身近に感じやすく、住民や学校、市民団体、企業など多様な人たちと連携しやすいことがわかった。今後もアイゴを通じて、様々な人が主体的に関われるしくみを構築しながら、持続可能な里海づくりを目指す。